

印西市立本埜第一小学校及び本埜第二小学校の統合に向けた
通学区域の変更について

1 本埜第一小学校の現状

(1) 児童数・学級数・教職員数（県職）の推移

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
児童数	52	47	43	49	53
学級数	6(1)	5(1)	5(1)	5(1)	5(1)
教職員数	11	10	10	10	10

※平成30年5月1日現在

※学級数の()内の数字は、特別支援学級の数

(2) 平成30年度の児童数及び学級数

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
30年度	児童数	10	12	9	7	9	6	53
	学級数	1	1	複式学級	複式学級	①	①	5(1)

※平成30年5月1日現在

※学級数の○内の数字は、増置教員により複式学級を解消している学級

(3) 平成30年度の教職員数

	校長	教頭	教諭	養護	事務	計
30年度	1	1	6	1	1	10

※平成30年5月1日現在

(4) 今後の児童数の推移

	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
1年	11	12	6	7	9	7
2年	10	11	12	6	7	9
3年	12	10	11	12	6	7
4年	9	12	10	11	12	6
5年	7	9	12	10	11	12
6年	9	7	9	12	10	11
計	58	61	60	58	55	52

※平成30年8月1日現在

※入学予定児童の学区外就学は未考慮

(5) 学区外就学の状況

	27年度	28年度	29年度	30年度
本一小学校区の児童数(a)	47	43	49	53
学区外就学している児童数(b)	20	16	22	26
学区外就学している児童の割合(b)/(a+b)	29.9%	27.1%	31.0%	32.9%

※平成30年5月1日現在

2 本塾第二小学校の現状

(1) 児童数・学級数・教職員数（県職）の推移

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
児童数	71	70	57	47	38
学級数	6(1)	6(1)	6(1)	5(2)	4(2)
教職員数	13	13	13	11	10

※平成30年5月1日現在

※学級数の()内の数字は、特別支援学級の数

(2) 平成30年度の児童数及び学級数

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
30年度	児童数	2	4	6	10	9	7	38
	学級数	複式学級	複式学級	複式学級	複式学級	①	①	4(2)

※平成30年5月1日現在

※学級数の○内の数字は、増置教員により複式学級を解消している学級

(3) 平成30年度の教職員数

	校長	教頭	教諭	養護	事務	計
30年度	1	1	6	1	1	10

※平成30年5月1日現在

(4) 今後の児童数の推移

	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
1年	10	7	7	7	7	7
2年	2	10	7	7	7	7
3年	4	2	10	7	7	7
4年	6	4	2	10	7	7
5年	10	6	4	2	10	7
6年	9	10	6	4	2	10
計	41	39	36	37	40	45

※平成30年8月1日現在

※入学予定児童の学区外就学は未考慮

(5) 学区外就学の状況

	27年度	28年度	29年度	30年度
本二小学校区の児童数(a+b) c	70	57	47	38
学区外就学している児童数(b)	5	6	9	12
学区外就学している児童の割合(b/c)	6.7%	9.5%	16.1%	24.0%

※平成30年5月1日現在

3 学校統合の必要性

- 学校は、子どもたちが教科等の知識や技能を習得する場であるとともに、社会性や規範意識を培う場でもあり、これらは様々な集団活動を通じてその成果をあげていることから、学校は一定の規模があることが望ましいと考えます。
- 本埜第一小学校については、現在、第3学年及び第4学年が複式学級で、全校児童数は53名の状況です。
本埜第二小学校については、現在、第1学年及び第2学年、第3学年及び第4学年で、それぞれ複式学級を編成しており、全校児童数は38名の状況です。
- 今後の本埜第一小学校及び本埜第二小学校の学区内における児童数の推移は、横ばいの傾向にみえますが、実際の入学者数は、近接する小学校への学区外就学者数の状況により、減少傾向に転じる可能性があります。
- このことから、学校規模により生じる教育指導面・学校運営面の課題を解消し、子どもたちの未来に向け、より良い教育環境を創造していくためには、隣接校との統合により、学校規模及び配置の適正化を図る必要があると考えます。

4 教育委員会における対応

- H28.10 印西市学校適正規模・適正配置基本方針（以下「基本方針」という。）を策定
 - ・学校規模による課題を整理し、小・中学校の適正規模を12～24学級とした。
 - ・本埜第一小学校は滝野小学校へ、本埜第二小学校は小林北小学校への統合シミュレーションなど
- H28.11 基本方針に係る保護者説明会（於：本埜第一小学校及び本埜第二小学校）
- H29.10 本埜地区地域審議会へ基本方針について説明
 - ・基本方針の説明及び質疑応答
- H30.1 本埜地区の学校を考える会から「要望書及び署名簿」を受領
 - ・本埜第一小学校と本埜第二小学校を統合して（以下「本埜小学校」という。）早期に開校すること。（平成31年度開校）
 - ・両校の中間地点である本埜中学校の場所に開校 など
- H30.2 本埜地区地域審議会から基本方針についての建議書受領
 - ・基本方針の見直し及び再検討すること。
 - ・適正配置を進めるにあたり、市各部局が一体となり住民の実態やニーズを十分踏まえ、検討を進めること。
 - ・少子化に対応した学校づくりのための事業費を優先的に確保し、市役所の体制整備と充実を図ること。
- H30.3 本埜地区の学校を考える会からの要望書に対して市から回答
 - ・基本方針とは異なるが、複式学級の解消、小規模校のデメリット緩和の面から上記「本埜小学校」を再検討して行く
 - ・使用する施設は、施設の状況、早期統合及び経費等の面から、本埜第一小学校または本埜第二小学校のいずれかの施設を使用して開校することが最善の選択と考える。（現時点で本埜中学校の施設改修の考えはない。） など

5 保護者、地域及び本埜地区の学校を考える会の各代表者との会議（※） 経過

- H30.5.8 第1回会議（於：本埜公民館）
 ・本埜地区の小・中学校に関するこれまでの経緯等について
- H30.5.22 第2回会議（於：本埜公民館）
 ・本埜第一小学校と本埜第二小学校の統合後の使用校舎について
- H30.7.12 第3回会議（於：本埜公民館）
 ・本埜中学校を小学生が使用した場合の課題事項について など

- これまでの意見交換会では、本埜地区の学校を考える会から要望されている「本埜第一小学校と本埜第二小学校を統合して、概ね中間地点にある本埜中学校に新しい小学校を早期に開校」を望むご意見をはじめ、統合した場合の使用校舎に関するご意見、義務教育学校（小中一貫校）に関するご意見、その他、統合した場合のスケジュールに関するご意見など、様々なご意見等をいただきました。

※メンバー構成

区分	所属等		教育委員会事務局
保護者	本埜第一小学校の保護者代表（2名）	⇔	教育部（部長）
	本埜第二小学校の保護者代表（2名）		教育総務課（課長）
	本埜中学校の保護者代表（2名）		学務課（課長）
地域	本埜第一小学校区の区長（2名）		学務係（3名）
	本埜第二小学校区の区長（2名）		学校適正配置推進係（2名）
会	本埜地区の学校を考える会（6名）		

【会議結果としてまとめた内容】

- ・本埜第一小学校と本埜第二小学校の早期統合（平成31年度）
- ・統合後の学校の位置は、本埜第一小学校とすること。
- ・統合後は、新たな小学校（仮：本埜小学校）でスタートすること。
- ・本埜中学校の今後の対応等については、各代表者と協議をすること。

6 保護者及び地域説明会

上記、代表者との会議結果を踏まえ、本埜中学校区の保護者及び地域住民に説明会を開催しました。

- 平成30年8月28日（本埜第一小学校区） 参加者：59名
 本埜第一小学校及び本埜第二小学校の今後の対応等に係る保護者、地域説明会

- 平成30年8月29日（本埜第二小学校区） 参加者：68名
 本埜第一小学校及び本埜第二小学校の今後の対応等に係る保護者、地域説明会

◎説明会の際に保護者、地域から出されている主な意見
【統合に伴う児童通学に関すること】

《統合後のスクールバスの運行について》

「質問」

統合後のスクールバスの運行はどのように考えているのか。

「回答」

現在運行している本埜第一小学校区の運行は継続し、本埜第二小学校区内は新たに運行していきたいと考えています。

「質問」

低学年と高学年では登校時間が異なるがスクールバスはどのようになるのか。運行ルートや便数及びバスの台数は。

「回答」

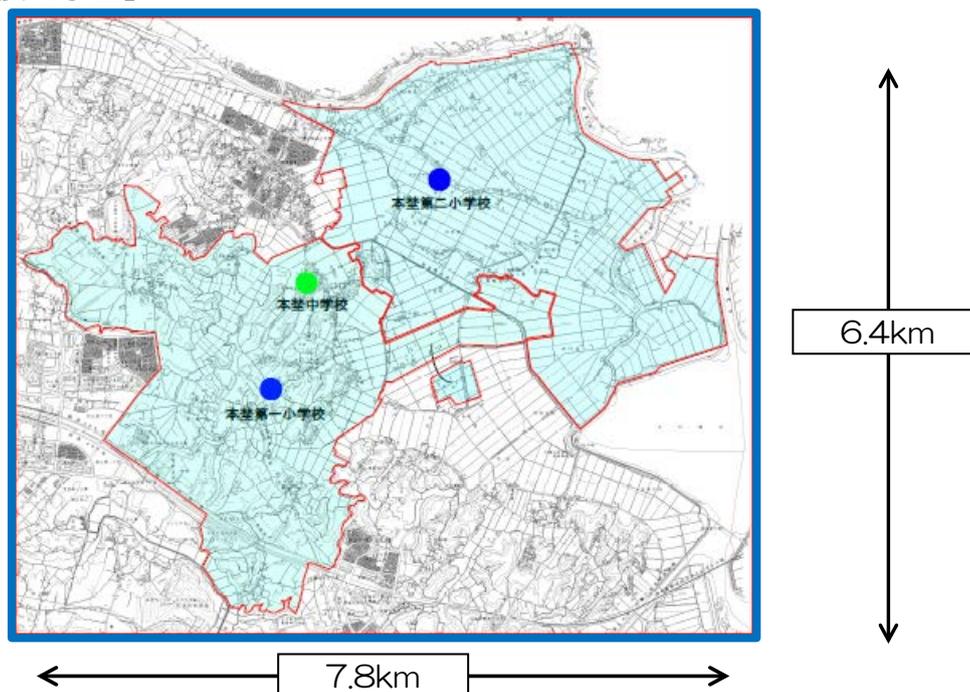
本埜第二小学校区内の運行ルート、便数及びバスの台数は、児童の自宅の位置や1運行あたりの時間等を踏まえ、事務局から提案していきたいと考えております。しかし、通学区域が広いこともありますので、自宅前まで送迎することは難しいということをご理解いただきたいと思います。

7 本埜第一小学校及び本埜第二小学校の今後の対応等について

教育委員会としては、子どもたちの教育環境の早期改善を優先課題として、各代表者の皆様と意見交換を重ね、保護者、地域全体を対象とした説明会を開催してまいりました。

その結果として、基本方針の学校適正配置シミュレーションとは異なりますが、複式学級の解消と小規模校のデメリット緩和策として、本埜第一小学校と本埜第二小学校を統合し、本埜第一小学校の施設を使用して、平成31年4月1日に、新たな小学校としてのスタートに向け準備を進めているところです。

【統合後の学区】



【統合後の児童数・学級数の推移】（平成30年10月1日現在）

学校名	31年度		32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
	児童数	学級数	児童数	児童数	児童数	児童数	児童数
本一小	54	6 (1)	57	56	54	51	48
本二小	41	5 (2)	39	36	37	40	45
統合後	95	6 (2)	96	92	91	91	93

※H31年度学級数の()内の数字は特別支援学級数となります。
 ※H32年度以降の入学予定者の学区外就学は考慮しておりません。

8 学校統合にあたり配慮すべき事項

(1) 子どもたちへの配慮

学校の統合により、子どもたちはそれまでの人間関係に加えて新たな教職員や友人などとの人間関係の構築に取り組むこととなります。子どもたちが新しい学校生活にスムーズに移行できるよう教職員の配置など、心身の負担軽減に向けた対応を講じてまいります。

① 相談員等の派遣

いじめ・非行・無気力・友人関係の問題など、お子様や保護者が抱える様々な不安や悩みへの相談に応じるため、必要に応じて統合校に相談員や学校問題対策指導員を派遣します。

② 教員の配置等

学校統合の円滑な推進並びに地域性を理解した教育の推進を図るため、本笠第一小学校及び本笠第二小学校から統合後の学校への教員の異動を県に対し要望してまいります。

③ アンケート調査等の実施

統合に伴う子どもたちの変化を早期に発見するとともに、迅速な対応を図るため、学校生活や授業、友人関係などに関するアンケート調査等を実施します。

(2) 通学への配慮

学校統合に伴う通学路の安全確保に努めるとともに、学区が広域となり通学が遠距離となる場合は、必要に応じて通学支援策を検討します。

① 安全マップの作成

子どもたちに学校区内の危険個所を認識させるとともに、安全教育や登下校時の安全指導を徹底するため、統合後の学校の安全マップを作成します。

② スクールバス運行の検討

学校統合により本埜第二小学校区の児童が遠距離となることから、通学が過度な負担にならないよう、スクールバスを運行し、登下校時の送迎を行います。

(3) 地域への配慮

学校には歴史や伝統があり、地域との結びつきも強いため、学校統合を進めるうえでは、保護者や地域の皆様と課題を共有し、理解と協力を得られるように努めます。

① 進捗状況等の情報提供

地域の皆様と情報の共有を図るため、説明会及び意見交換会の説明内容やいただいたご意見等のもとより、統合に向けた進捗状況について「お知らせ」を作成し、回覧や配布などの方法により、地域の皆様に情報提供します。

(4) 統合後の学校施設の検討

「印西市公共施設等総合管理計画」及び「印西市公共施設跡地等活用方針」に基づき検討することとなります。

9 統合準備会の設置

学校統合の円滑な推進を図るため、統合準備会を設置し、学校運営や通学支援対策など、統合に向けた必要事項を協議・検討します。